



屈託のない笑顔に励まされて

学園長 小島 澄人

屈託のない笑顔、子どもたちのはじけるような笑顔がまだまだきらきら輝いている。先日行われた「ふれあいまつり」での子どもたちは本当にはじけていました。本来「フリーマーケット」を、と思っていた土曜日、コロナの中での父母の会の活動は全く行えない中、子どもたちの為に保護者の皆さんが作られた手作りのおもちゃの数々、その数の多さにまずびっくりです。子どもたちの目の輝きが忘れられません。ホールや教室のあちこちで繰り広げられる「おもちゃやさん」、「遊びコーナー」、本当にはじけるような笑顔が見られました。有志の手伝いでの開催となりましたが、自粛せざるを得ない環境の中、いろいろな工夫の中、終わることが出来ました。私も忍者の格好をしてスタンプラリーのお手伝いをさせていただきましたが、どの子どもも最高の笑顔でした。常任の皆さん、お手伝いの皆さん、手作りにご協力いただいた保護者の皆さん、本当にありがとうございました。

夢の森では配慮を尽くした中での「あきまつり」、森の中での開催とのこと、パンフレットを見るだけで楽しさ一杯の場が想像出来る企画です。赤い、青いボンの夢の会役員、あきまつり係のご苦労、本当にありがとうございます。明日、だとのこと、本当に楽しみです。

玉川中央の遠足に付き添いました。多摩動物公園、いろいろな動物との出会いに目が輝きっぱなし、本当に子どもたちの笑顔は素敵でした。園内を歩いていると見慣れたグループが、そう、なんと、あかとんぼ保育園も遠足に来ていました。

どの園も、コロナの中での保育活動に工夫を重ね、またさまざまな配慮をしてはいてもまだまだです。発表会、これもまた難関です。園を休みたくない、けど心配です。頑張るだけです。

発表会の予行練習、舞台の手前で見てみると、もう見て貰いたい一心です。子どもたちの衣装、踊り、仕草、そして台詞、どの子も一生懸命です。せめてその強い決意を、思いを、家族の方には見て貰おう、そう考えています。一クラスずつの観覧となりますが、子どものすべての仕草をじっくり見てください。すべてのクラスを見て欲しい、その願いは来年に楽しみにして、今年是我慢の年ですね。

コロナはまだまだです。子どもたちもまだマスクは必要です。大人も子どもも、もう少しの辛抱です。

さあ、いよいよ最後の月になりました。あっと、思ったらもう12月です。乗り越えるしかありません。発表会、クリスマス会、楽しみに待ちます。

